

第十章 中学、高校PTA会長

子どもの成長とPTA活動

結婚した翌年の昭和四十七年から、四十八年、五十二年に三人の子どもに恵まれた。みんな元気に育ってくれた。保育園は三人とも天理愛児園にお世話になった。この時期、妻は育児と家事、税理士事務所の仕事とよく頑張ってくれた。もちろん、同居の祖父母が助けてくれた。特に祖母は、家の孫三人の世話を大学入学まで続けた。

五十年代の初めごろから、社町長らの熱心な誘致活動により、五十三年十月一日、兵庫教育大学が加東郡社町に開校した。これは、五十三年六月、第八十四回国会において「国立大学設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法」が成立したことにより、兵庫教育大学の設置が法律上認められ、新構想の教員養成大学としてスタートしたことによる。

五十五年四月、附属小学校と附属幼稚園、五十七年四月に、附属中学校が開校した。市制を布いていない小さな田園の町に、国立大学とその附属校・園ができたのである。幼児や児童を

持つ親の間で、期待と不安が渦巻いていた。

附属小学校の第一回生は、一年生と四年生の計百余名である。校舎建築が間に合わず、社町嬉野台の仮校舎（兵庫県元キャンプ施設、通称六角堂）で開校することになった。

私は迷うことなく次女の入学を決めた。翌年に、滝野東小学校に入学していた長女の転校を決めた。二人揃って自宅からバス通学をした。その後、三女も続いた。そして今、長女の子どもが附属小学校に通学している。

初代校長は、長谷川孝士先生（兵教大教授）副校長は、国立大学附属校教育のベテラン長岡文雄先生であった。教諭は、近隣の市町教育委員会から派遣された先生方であった。仮校舎は一年間だけであった。施設、設備の面では随分不自由な状態であったが、願ってもない自然環境の中で、子どもたちは、元氣いっぱい、よく学び、よく遊んで、すくすくと育った。

附属小学校にPTAを組織することになり、私は、広報委員長を引き受けた。PTA広報紙を手書きで作成し、そのまま学校のコピー機で印刷して配布した。三学期末には『うれしの開校・それから一年』の冊子にまとめた。

五十七年には、附属中学校のPTAが産声を上げた。私は、長女が中学校に行くようになってPTA役員になることはなかった。

六十年三月、JC時代からの友人である中井宏明君が突然、私の事務所に来て「次年度の附

属中PTAの会長になった」「それはご苦労さま」「については君を副会長に決めてきた。再来年は君が会長になる」「何！それは」というやりとりがあつて、六十一年四月、私は附属中学校のPTA会長になった。

子どもが順に、小野高校に入学した。新設の附属中学校から小野高校のPTA役員を出す慣例はなく、附属中の保護者はPTAとは無縁であつた。あるとき、JC時代からの友人である井場紀年君（現在小野高校同窓会長）が「西村君、君を小野高校のPTA役員にしてあげたよ。しっかりやってくれ」「望んでもいないのに、なぜ」「そんなことを言つてはいけない。小野高校のPTA役員は誰でもなれないのだ」「余計な配慮だ。僕は社高校の卒業生だよ」……いろいろあつてPTA役員を引き受け、平成六年四月、小野高等学校PTA会長になった。

こんな経緯はどうでもよいのだが、附属中学校や小野高校のPTA会長として、中学生や高校生に述べた教育に関する所感や、入学式、卒業式の祝辞を掲載したい。自分の人生観を繰り返し述べている。

卒業式祝辞（附属中学校 昭和六十二年三月十四日）

立春の陽気充つる今日のおき日に本校をご卒業のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは縁あつて、兵庫教育大学・学校教育学部附属中学校に入学され、三年間に亘るたゆ

まぬ勉学の功が認められ、本日ここに、めでたくご卒業されることとなりました。私はみなさんのご卒業にあたって次の二つのことを申し述べ、お祝いのことばと致したいと思います。

その第一は、世の中のあらゆる機会は「一期一会^{いちいちえ}」であるとしっかり覚えておいてほしいということです。お茶を勉強されている方はよくご存じのことですが、お茶の極意は「今日は再びかえらざるを覚悟して、なおざりには、一服も催すまじきはずのこと」（井伊直弼『一会集』）というのだそうです。すなわち、茶道の心得にいう一期一会は、お茶を点てる人も、それを受ける人も、この一瞬は一生に唯一回だけの機会だと思って、精一杯の気持ちでその場に臨めと教えているのです。

私がいまここで、みなさまにお話していることも一期一会なのです。この機会は二度と再びやってまいりません。ひととき、ひとときをいい加減に過ぎさない。そうした生活をするのが、私たちが生きてゆく上で一番大事なことだと教えているのです。どうかこれからの長い人生を一期一会で精一杯頑張りたいと思います。

第二は健康です。身体の健康と心の健康は、人が生きていく上で最大の財産です。みなさんは今日まで、よき師・よき友・よき環境に恵まれて心身ともに立派に成長されました。どうか今後ともこの健康というすばらしい財産を大事に守りながら、学び舎の名を汚すことなく、精一杯頑張っていたきたいと思います。

今日はみなさんにとって誠にめでたい日であります。どうぞ今日のこの感激をいつまでも忘れずに、しっかりと胸に刻み込んで、将来一層ご奮闘いただきますよう希望致します。

終わりに、校長先生はじめ、諸先生方に対し感謝を申し上げます。今後とも、この教え子たちの上にいつまでも変わらぬご慈愛とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ご出席の保護者の皆さまに一言ご挨拶を申し上げます。今日ほど自分達の子どもが頼もしく、すばらしく見える日はございません。「私たちにもお前のようないい子がいるのだ」「私はお前のことを自慢に思うよ」「アーム・プラウド・オブ・ユー」お世辞ではなく、心から、すんなりとこのよろこびの言葉が出てまいります。

今日は子どもたちとともに、このよろこびと幸せを十分かみしめたいものです。本日は本当におめでとうございます。

※私が本当に言いたかったのは、よき師・よき友・よき環境に恵まれて、心身ともにまっすぐ育ってくれてありがとうということですよ。

入学式祝辞（附属中学校 昭和六十二年四月九日）

みなさんご入学おめでとうございます。いよいよ今日から附属中学校の生徒になりました。ご両親もご家族のみなさまもさぞかしお喜びのことと思えます。

さて、高浜虚子という人の句に、「春風や、闘志抱きて丘に立つ」という句があります。こ
こ嬉野台は春です。今日の入学の清々しい気持ちをよく表しているようです。私は、この句か
ら中学生になったみなさんに期待することを三つお話しいたします。

その第一は「やる気」です。いつも心の奥深くに燃えるようなやる気、向上心を持ちたいも
のです。

第二は「絶え間なく努力し続ける」ということです。一粒の粟でも、一点に落ち続ければ岩
をも砕くといえます。

第三は「やさしい人柄」です。健全な心身とともに、優しい人柄を身につけたいものです。
今申し上げましたことは、いずれも大変難しいことばかりですが、みなさんは今日から附中生
です。人生をたくましく、豊かに生き抜くために考え、鍛え、行動する生徒を目指して一日も
速く立派な附中生となって、今申し上げた三つのことを実践してほしいと思います。

ご出席の保護者に一言ご挨拶申し上げます。本日は、本当におめでとうございます。自分の
子どもの成長を見ることは人生の嬉しいことのひとつであります。今日はまた子どもが成長し、
新しい節目を迎えた大変嬉しい日であります。これからの附中生としての三年間、子どもの勉
強と身体づくりと人柄づくりに、保護者として精一杯励まし応援してやりたい気持ちで一杯で
す。本日は、本当におめでとうございます。

※新一年生には、やる気のある子、努力する子、やさしい子になってくださいと言えばよかったです。大人の考えることをそのまま、大人のことはで子どもに言っても何も伝わらない。子ども目線で、分かるように話すのは難しい。

選択への関与（兵庫県立小野高等学校PTA会報 昭和六十三年十月一日）
高校入学から卒業までの三年間に、親が子どもの選択に関与するのは、自分が理系向きか、文系向きかの選択に始まり、将来の職業選択の方向性を決めることまで、各個別の事情を加味して具体化され、細分化され、実に多岐にわたる。

さらに子ども達にとって勉学以外の分野においても、本来の高校生としての、人生の錬り上げ期独特の悩みや苦しみも多い。子どもに自分がなし得なかった、かなり高度な期待を目標に定めて、子どもの選択の一つひとつ関与している親もいれば、子どもは子ども、好きにすればよいと放任、子どもの選択に何一つ関わろうとしない親もいる。

しかしながら、子どもが高校生ともなれば、何らかの有益な選択への関与（相談や助言を通じて子どもと関わりを持つこと）をするのは親として当然の義務であり、責任であろう。過度の関与や極度の不干渉ではなく、親として、自分の子どもの将来に実り多きことを期待して、子どもに受け入れられ、かつ、尊重される選択への関与をするため、日頃から親子のコミュニ

ケーションを大切にしたい。

といっても、良い親であろうとすればする程、反抗されたり、バカにされたり、わめかれたり、実に悲喜こもごも。きれいごとではすまされない親子のいさかいや、心の葛藤を経て、子どもに対する関与を練りかえしているのが大方の実情である。

選択への関与の過程を通じて、若干の親と子の願望をも含めたシナリオを書きあげ、ともによろこびあいたいものである。選択に関与する親も、選択に関与される子ども実に悩み多い三年間である。

※私自身が、どれだけ子どもの選択への関与に関わったかと考えてみると、長女に、将来税理士になって欲しいと進めたが、次女、三女は全く自由にさせた。長女は理系で、薬学部志望であったのを、入試直前に商学部志望に変更し、その後、税理士になってくれたのは本当にうれしい。

いま、なぜ大学を目指すのか（教育講演会挨拶・PTA会報 平成六年七月二十二日）
本校生徒の進路を考える場合、大学進学だけが、進路でないことは先刻十分承知をいたしていますが、今日は、最初に、進路を大学進学に限定して所感を述べさせていただくことをお許し願いたいと存じます。

進路を大学進学に求める場合、いま、なぜ大学に学ぶのかという素朴な疑問から、大学進学と将来の職業とのかかわりについて考えてみたいと思います。

第一のケースは、医師や歯科医師、薬剤師のように、その職業につくためには、その専門分野の大学の卒業が前提となっている職業群があります、この職業につくためには、大学入試の時点で、将来の職業が決められ、途中からの転向は、余ほどのことがない限りあり得ません。本校にも、毎年何人かの希望者があるようです。

第二のケースは、弁護士、会計士、高級技術者のように、その職業に就くためには、大学卒業が必ずしも前提になっていませんが、実質的には、大学卒が極めて有利な職業群があります。企業や官公庁の管理者を目指す人の多くも、この分野に入ります。これらの職業に就くためには、大学入試の時点では、将来の職業は、それぞれの生徒の希望や願望として、胸に抱かれていることが多いと思われまじ、途中からの変更も十分あり得ることです。一番多いケースかも知れません。

第三のケースは、大学入試と将来の職業を、左程大層に考えておらず、とりあえず大学に行きたい。なぜなら、大学には十分時間がある。将来何の職業に就くかは、まだ決まっていない。自分の将来の職業や目的は、そこで発見すればよいと考えている場合があります。このケースも、随分多いと思われまじ。

第一のケースは、大学でその職業のための専門教育、職業教育が行われるため、大学で何を学ぶかは当初からはつきりしています。

第二のケースは、通常、大学で教養に関する分野を約二年間学び、あとの二年間で専攻分野の教育を受けることとなるのは他のケースと同様ですが、結果として、自分の能力や適性に合った職業、自分の好みや興味や特性を生かせる職業に就くことができれば、誠に幸せなことであります。

第三のケースも、別に悪くはない。警沢だと言われるかも知れないが、十八歳やそこらで社会へ出るの嫌だ。もっともっと、いろいろな勉強や体験がしたいと考えるのも、それはそれでよいと思います。

以上、大学進学と職業について、三つのケースに分けて考えてみましたが、将来どんな職業生活を送るにせよ、本校生徒が社会の有為な人材として、強くたくましく、人生を切り拓き、たつた一回限りの人生を意義あるものとするために、少し手を伸ばせば届く一段上の大学を目指して努力するのは、極めて有意義なことであります。

学歴批判に関していろいろ議論はされているものの、大学入試は将来の職業選択や、社会生活のためのさしあたっての教育上の入口なのです。ここで重要なことは、「高学歴や有名大学入試突破だけに意義が認められるという訳ではない」ということです。

「いま、なぜ大学を目指すのか」と考えた場合、それは受験勉強という、もはやあと戻りのできない苦しい競争に耐えて、将来の職業生活における自己実現のために、可能な限りの挑戦をし、考え、鍛え、本物の自分自身を創っていくところに真の意義が認められることを忘れてはなりません。私は、校長先生が、いつも「本気で生徒を育てる」と説かれているのはこのことであろうと理解しています。

本校生徒が、各自のすばらしい資質を生かし、その上、なお一層の努力をする。あとは運を引き寄せ、目標の大学に合格する。このことが、大部分の本校生徒の希望の進路となっていることに、保護者として素直によるこびを感じるところであります。

最後に、いまこそ頑張るときなのです。本校生徒のみなさまの希望の進路達成をお祈りいたします。

※PTAの事業として小野市民会館で教育講演会を行った。講師は最近の大学入試事情について話された。小野高校の卒業生全員が大学を目指していた訳ではない。いろいろな事情で就職する生徒もいた。その生徒の保護者には申し訳ない講演会になった。

卒業式祝辞（小野高校 平成七年二月二十八日）

本日ここに歴史と伝統の兵庫県立小野高等学校をご卒業のみなさん。ご卒業おめでとうござ

います。皆さんは選ばれて本校に入学され、三年間にわたる絶ゆまぬ勉学の功が認められ、本日ここにめでたくご卒業されることとなりました。

みなさんは、今ここに列して、胸中にさまざまな感慨が去来することでしょう。苦しい受験勉強に耐えて苦闘したこと。スポーツや部活動に熱中したこと。友だちとの付き合いでいろいろ悩んだこと。蜻蛉祭や体育大会等楽しかったこと、エンジョイ・ハイスクールライフのさまざまな記憶が次々と思い起こされることと思います。

私はみなさんのご卒業にあたって、次の二つのことを申し述べ、お祝いのことばと致したいと思います。

その第一は、みなさんは本校において、完成された学問の極めて多くの基礎的な知識を学ばれたのでありますが、それと同時に、学ぶ方法と学びへの関心を身につけられました。また学ぶことの面白さをも身につけられました。人間は元来学ぶ存在です。どうか今後とも、この学び姿勢を生涯持ちつづけてほしいと思います。

今年には戦後五十年。あと六年たつと二十一世紀をむかえます。ソビエト連邦の崩壊により戦争と革命の二十世紀は終わり、来るべき二十一世紀は、平和と安定の時代と言われています。当然のことながら、あらゆる分野の、より一層の自由競争が進みます。

この厳しい自由競争社会の中で、高度情報化と国際化に対応していくためには、学校という

学びの場で得た基礎知識の上に、更に経験を積み重ね、するどい判断力や、豊かな想像力をも身につけなければなりません。このためには、みなさんは、生涯学び続けなければなりません。どうか本校で得られた学びのノウハウを大切に、次代をになう立派な人間になってほしいと思います。

第二は、みなさんに、奉仕・サービスへの理解を深めてほしいということです、このたびの阪神淡路大震災では、多くの方がボランティアとして奉仕しました。また将来自分の職業を通して世の中に奉仕する・ボケイシヨナルサービスも大切な奉仕です。また目的をもって寄付をする・ドネイシヨンも大事な奉仕です。

いろいろな形の奉仕・サービスが考えられます。どうかみなさん、この世に生まれた以上、その持てるすばらしい資質を生かして、世のため、人のため、社会公共のため、是非奉仕の価値を認め、より多くの奉仕が実践できる人になってほしいと思います。

そして、本日いまここに大きな夢と希望を抱いて、大学に、あるいは実社会へと船出されるみなさん方の前途に、幸多からんことをお祈りし、心からご祝福申しあげます。

また校長先生はじめ、諸先生方が、終始一貫して教育のためにお尽くしいただいたこと、心から感謝申し上げます

最後に、本日までご出席の保護者の皆さまに一言ご挨拶申し上げます。本日まで自分たちの子ども

もが頼もしく、素晴らしく見える日はございません。すばらしい体躯、きびきびした所作、引き締まった顔、顔、顔。どの一点をとってみましても、本日の卒業生は輝いています。光っています。よく頑張った。本当にうれしい。本校にきてよかった。お父さんも、お母さんも、お前のことを誇りに思うよ。今日は、親子ともどもこの感慨を味わいたいものです。本日は本当におめでとうございます。

※特に奉仕・サービスの大切さを訴えたかった。成人して職業生活を営んでいく過程で、奉仕の意義と価値をよく理解して、自分でできる奉仕を見つけて実践して欲しい。

入学式祝辞（小野高校 平成七年四月十日）

歴史と伝統の兵庫県立小野高等学校へ入学のみなさん。ご入学おめでとうございます。みなさんは高校入試の難関を突破して、本校に入学を許可され、これから三年間学ばれるのでありますが、私はみなさんのご入学に際し、次の二点を申し述べ、お祝いのことばと致したいと思えます。

第一は、みなさんは本校に入学を許可され、学ぶこととなったことに、まず自信と誇りを持ち、感謝をしてほしいということです。本年一月十七日の阪神淡路大震災には多くの同年齢の生徒諸君が被災致しました。しかし、みんな勇気をもって立ち上がりました。

みなさんのまわりにも直接、間接を問わずこの震災に遭遇し、この震災を乗りこえ、今日のよき日をむかえられた方もおられるのではないかと思います。私は本日ご入学のみなさまに、まずこのことを認識していただき、本校ではよく努力して、学びのノウハウを身につけてほしいと願います。みなさんは、これから三年間をかけて、学問の基礎知識、それもかなりの高い水準の知識を学ばれる訳であります。

最初は、中学校がそうであつたように、ティーチ・アンド・ラーンの形をとります。即ち、先生から教えていただいたことをひたすら覚えるということですが、しかしながら、高校の高学年になつてまいりますと、先生から教えられることばかりでなく、自ら進んで興味と関心と意欲をもって勉強する、このとき先生は、みなさんのすばらしい素質を引き出して下さる。つまり、エデュケーター・アンド・スタディーへと学びの姿勢が変わっていくということです、

本校には、すばらしい先生が大勢いらつしやいます。三年間の先生方とのふれ合いを通じて、学問の基礎知識ばかりでなく、みなさんが真に活躍する二十一世紀を生き抜くためのしっかりとした歴史観や、世界観が、持てるよう努力してほしいと願います。そして、学びのノウハウを身につけ、理想の進路を実現されるよう心からお祈り致します。

第二は健康です。平均八十年超に及ぶ長い人生航路に耐え得る強い体力づくりを常に心がけて下さい。体育やスポーツを通して体力づくりが心かげるのは大切なことです。文武両道は本

校の伝統です。文武双方におけるみなさんのご活躍を祈ってやみません。

終わりに、ご出席の保護者のみなさまに一言お祝いのご言葉を申しあげます。我が子の成長をみることは、人生の大変嬉しいことのひとつであります。今日はまた、子どもが成長し、新しい節目をむかえました。この子達が本校で、学ぶこととなったことを心からよろこび、今日の感激を忘れることなくたゆみない精進をつづけて所期の目的を達成するように、保護者として精一杯励まして、応援してやりたい気持ちで一杯です。本日は本当におめでとうございます。

※よく努力して学びのノウハウを身につけてほしいこと。二十一世紀を生き抜くためのしっかりした歴史観や世界観が持てるよう努力して欲しいこと。長い人生航路に耐え得る強い体力づくりにはげんで欲しいこと。みんな私の経験から出た言葉である。

「柳城」に寄せて（小野高等学校機関誌「柳城」平成七年三月）
私はいま、歴史と伝統の小野高校のPTA会長にご推挽をいただき、PTA事業を遂行させていただきます。

とりわけ、学校行事への参加や、校長先生と同道しての多くの会議や、講演会に参加する機会を得て、随分勉強させていただきました。その折々に感じましたことがらを書留、「柳城」発刊のおよるこびの言葉といたします、

近年「個性ゆたかな人間を育て、個人個人の持つ才能を伸ばす教育」が時代の流れの主流となり、学校週五日制の月二回実施、男子生徒に対する家庭科履修、単位制の導入など高等教育の多様化が進められています。

しかしながら、このような個性尊重に伴う高等教育の多様化、科目選択の自由化、大学入試の科目減少、推せん入試の増加は、高校卒業者の学力水準や、学習内容の基準を低下せしめ、安易なものにしないかと危惧されます。

もちろん、今も、そして将来も、単なる優等生が成功する程、現実社会は甘くないことは万人が認めるところであり、一人ひとりの持てる可能性や、個性を尊重することは、極めて重要であります。本校に集う生徒諸君の将来を思うとき、当面の安易な選択に走ることなく、高校教育の基礎部分をしっかりと学んで、真の学力を身につけてほしいと願います。それは単なる功利主義的な学習観からではなく、人間をいまわりも二まわりも、大きく育てようとする学校や、保護者の共通の願いなのです。

体育大会における生徒諸君のすばらしい競技や、演技に感動いたしました。みなさまの体躯のすばらしさに目を見はりました。運動場でみる生徒諸君は、光っていました。本校の体育指導はもとより、生活指導重視の成果をここに見ることができ、うれしく思いました。

挨拶・掃除・時間厳守という基本的な生活習慣重視の生活姿勢は、生徒諸君のあらゆる行動や

所作に、緊張感と輝きを与えています。

文武両道は本校の伝統です。文化面、体育面ともによく頑張っています。部活動を通じて集団的規律を身につけ、集団活動への主体的参加を通じて、責任・連帯・共同・思いやりなどの価値を自分のものとして欲しいと願います。

最後に本校の蜻蛉魂や、明・浄・直という先人の教えの中に、脈々と受け継がれている歴史や、伝統や、文化、校風というものは、それを守り、育てる人が、途轍もない愛と努力とこだわりを持って、育んでこられたことを知っていただきたいと思います。

縁あって本校に学ぶこととなったことを心からよろこび、今後なお一層、母校愛を大切にされるようにお祈り申し上げ「柳城」発刊の言葉といたします。

藤江校長の退官に寄せて（藤江環退官記念論集 平成七年三月）

「会長さん、僕はこのように考えますのや」。何と印象的で強烈な語り口であろう。能弁という訳でない。一語一語選んで話される先生の教育論や、学校経営、教員組織の充実に関する話の片鱗に触れる都度、その鋭い感覚と強い意思力に驚く。

私がかつて、大学受験と将来の職業選択に触れ、「日本の社会において大学入試は、将来の職業や生活確保のためのさしあたっての教育上の入り口なのです。どこの大学で、何を学んだ

かを問うことより、どこの大学に入学したか、その入り口の能力を社会が認めているということ、つまり、厳しい受験競争の勝者に大きな評価が与えられている。大学入試に成功するところから、将来の職業選択と社会生活の確保が始まると考えれば、今こそ頑張るときなのです」と言った。

これに対し、先生説いて曰く「僕は大学入試をそのような目的観では見ませんのや。受験勉強は、自己実現の一里塚、とりわけ、人生の一番大切な時期に、その挑戦を通して人間を考え、人間を鍛え、人間を創っていく、そんな風に位置付ければと念じ、自己を実現していく過程で、当然踏破していく道として、本校教育を考えていますのや」。

私は目から鱗が落ちる思いがした、社会の現実を肯定して、青春を受験勉強に賭けることも無駄でない。長い人生のたった三年ではないかと考える私の主張の底の浅さを見事に見抜かれたのである。

先生はまた、挨拶・掃除・時間厳守という基本的生活習慣重視を厳しく指導された。PTAの総会終了後「自らすすんで積極的に挨拶ができる親が少ない。便所の下駄がこの日に限り乱れている」と辛辣な批評を受けた。聞いてはいたが、この校長の基本的生活習慣重視の見識も並ではないなと驚く一方、恥ずかしくもあった。

また先生説いて曰く「郷土愛や母校愛を育てることも、小野高校の重要な使命。近年、本校

のレベルが格段にアップし、いわゆる近くにいなから入学しにくい学校、すなわち、近くて遠い学校になってしまっている。地域の子弟教育の役割を十分果たすためには、商業科の活用をはかり、商業科教育の内容そのものを時代に適応したものに改める必要がある、本校に商業科を設置された先人の知恵を、今こそ評価して、郷土愛や、母校愛を育てていかなければならない。

このため、地元有識者による公聴会を開催して、商業科の学科改編を積極的に進められ、来春より「国際経済科」ークラスが実現することとなったのである。

また先生説いて曰く、教師が燃えれば生徒も燃える。大切なのは教師の熱気なのです。私たち教員は、平素から熱意をもって指導にとり組もうと話合っている。今日の小野高校は、先人達のためまぬ努力によって築かれてきたのであり、生徒も教員も、ひとときもその恩恵に易々として安んじていてはならない。

縁あって伝統ある本校に集うこととなった以上、生徒も、教員も、更に学校の発展を目指し、懸命に努力しなければならない。

このことは私たちPTAにも強く求められたのであるが、校長は、特に教員組織の中に目標に向かって猛進する行動力を求め、自ら行動された。その熱気に煽られて、教員組織が一丸となり、先生と生徒が、しかり、わめき、泣き、ともに、ふれ合い。現在の小野高校発展のド

ラマが展開されてきたのである。

P T A会長を務めさせていただき本当によかった、本校教育を理解し、支援するP T A活動の実践が、私にとってよい勉強になりました。

最後に、藤江校長先生の、長い教員生活のご退官をお祝い申しあげますとともに、ご交誼を賜りましたことに深く感謝し、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

※六十三年四月から七年三月まで七年間、小野高校のP T A役員を務めた。会長を務めた最後の一年はいろいろな機会に教育に関する所感を述べている。

私の高校時代はあまりよい印象は残っていない。受験勉強に明け暮れたが、「そこで頑張ったから現在の自分がある。今はいばらの道であるが、これを超えると美しい花咲く楽園がある」という精神論で、情緒的に論理を展開している。

精神的にはまだ子どもである生徒に、大人の論理を押しつけ、子どもからは「厳しいばかりで、面白くもない学校だ」と思われていなかったか。「そうではない。小野高校で勉強したおかげで今の私がある」と思ってくれているのか。私には分からない。